

タウンミーティング 会議録

日 時：平成20年11月25日（火） 19:00～20:27

場 所：黒部市石田交流プラザ（石田）

テーマ：1．観光・交流の促進について

2．医療の充実について

3．子育て支援・学校設備の充実について

4．消防・防災体制の充実について

参加者：82人

【事務局】

皆さん、ご苦労さまです。

ご案内の時刻になりましたので、ただいまから平成20年度黒部市タウンミーティングを開催いたします。今年も昨年同様に市内の4つの中学校校下ごとに開催することとしておりまして、本日は第2日目であります。

今回のテーマにつきましては、1つ目には観光・交流の促進について、2つ目には医療の充実について、3つ目には子育て支援・学校設備の充実について、4つ目には消防・防災体制の充実について、以上4つのテーマで開催させていただきます。

最初に、市長からこのテーマにつきまして約15分ほどご説明申し上げます。その後、事前に発言の申し込みをされた方、その次に、会場の皆様から順次ご発言、ご提言をいただきたいというふうに思います。終了時間につきましては、8時30分ごろをめどとして進めていきたいと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

また、今ほど受付のほうでアンケート用紙をお配りさせていただきましたが、この場で発言できなかったご来場の皆様からも自由にご意見のほうをいただきたいと思います。日ごろから感じておられることをご記入くださいますようお願いいたします。お寄せいただきました意見につきましては、今後、市政運営の参考にさせていただく予定としております。

ここで皆様におわびを申し上げたいと思います。

今回のタウンミーティングの開催案内に当たりましては、優先的にご発言される方の募集につきまして、市の広報でのご案内をしたところでありますが、別にチラシも各家庭のほうに配布させていただきました。ですが、このチラシが、優先的に発言される方の応募締め切りである11月7日近く、あるいは場所によってはその日をおくれて届いたということもあったかもしれません。チラシの配布に当たりまして、各地区へチラシをお届けすること自体が遅くなりましたことにつきまして、この場をかりましておわび申し上げたいと思います。大変申しわけございませんでした。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

【市長】

詳細については、「市長あいさつ及び課題提起」をご覧ください。

【事務局】

それでは、ただいまから会場の皆様からのご提言をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前につき、ご意見等を述べていただきます。

もう一つお願いがあります。このタウンミーティングでは、限られた時間の中でありますので、できるだけたくさんの方からご意見をちょうだいしたいと考えておりまして、ご発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内ということをお願いいたします。

それでは、あらかじめご発言を申し込まれておられました堀切新のAさんからお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

【Aさん】

私は、防災関係だとか観光だとかいろいろ、俗に議員なんか箱物をつくって人気とりに結びつくということもあるけど、目に見えない、警察でも保安、生命、財産を守るとか、自衛隊は海外から攻められた場合は日本を守るとか、そういうこともあるが、健康の面について、実は妊娠、出産、子供を産むことから二十まで医療の無料化、それで財政が余れば70歳以上医療無料化、それには現在の国民健康保険のほかに新たに二十から年金をもらう前の59歳までの方に市民の医療税という二本立ての制度をつくって、その財源で、お年寄りの方は何かと老後のために、また病気がしたときのためにたくわえをしてきておられるかもしれんけど、できれば少子化対策のためにも、子供たちに、安心して子供を産む費用、出産分娩費用とかを無料化、これは国でもそう言っておられた。でも、それから二十になるまで親の負担を少なくして必要な子供を病気で亡くさないように、どんな病気をしても病院にかからないけがでも入院、通院、介護、すべてを無料にできないものかなと思って。

そして、75歳以上は後期高齢者医療で逆行するけど、それを国に返上して、そのかわり県にも要望したけど、お年寄りが殺人で殺されたとか、山で遭難したとか、海で遭難したとか、交通事故とか、そういうのは抜きにして、自然に病死したら、黒部市のために、市長さんとか、市職員の方、また市民の方々の恩恵によって、私ら、ここまで生きさせてもろうと。亡くなった人は、黒部市民は、死亡税として1人一律10万円出すようにしてはどうかと。私、それだけ言いたかったんですけど。

以上です。

それは県にも要望して。死亡税としたら遺族の感情を逆なでして、悲しんでおるところで、まだ死んでから何ごとかと、そう言う人もおられるけど、立つ鳥跡を濁さずで、亡くなっていくときには、ああ、社会のために黒部で死んだ、黒部で世話になったと思って、恩返しのつもりで死亡税として、自分が払わんかって親族でお金を出し合って10万払われていくということなので。私はそれを……。

【市長】

今、Aさんのほうから大変すばらしいというか、ゼロ歳から二十、あるいは70歳以上すべて医療費を無料にという、まずご提言をいただきました。

そこで、黒部市の今現在の取り組みを若干申し上げますと、子供、妊産婦、あるいは一人親、障害者の皆さんに対する医療費の助成はしております。特に今手厚くやっているつもりなのが、子供の医療費の無料化です。これは、乳幼児はもちろんでありますが、今現在、黒部市は小学校6年生までは入院は無料です。通院は3年生まで無料にしております。ですから、何か病気等けがで入院された方は、小学校6年生までは今のところ一応無料ということで、通院は3年生までです。

そこで、このこともいろいろ議会の皆さん方と議論をさせていただいて、できるだけ幅広く子育ての不安、負担がかからないように医療費の助成をしようといったときに、初めは、小学校6年生まで入院も通

院も無料にしたらといういろんなご意見もあったんですが、入院せんならんような病気、けがの場合は、それは負担のかからないように医療費を助成しようということに決めたんですが、通院については、とりあえず3年生までにさせてほしいというふうに提言しました。

それはなぜかといいますと、小学校4年生から6年生までの間の医療費が、何が一番よくかかっているのかいろいろ調査してみましたら、一番多いのは歯医者通いです。虫歯ですね。子供たちの虫歯がやっぱり、医療費として当然自己負担がありますから、そのことが一番多かったものですから、虫歯はならないように努力してもらいたいということで、努力をすれば虫歯のない子供を育てられますので、そのことについてはとりあえず自分たちで負担していただきたいということで、それは3年生までというふうに決めさせていただきました。

少なくとも義務教育の間は医療費を無料にしてもらえんかというような要望は一部からは伺っておりますが、やはりそのありがたみというか、父兄の皆さん方も段階をもって、我々も限られた財政の中で負担しているわけですから、その辺のことについては段階をもって進めていきたいと思っております。

ちなみに、乳幼児の医療費助成で年間6,000万円ほど黒部市ではかかっています。小学校の部分で4,000万円余り。ですから、今言ったそういう乳幼児から小学校6年生まで、あるいは通院は3年生まで、この部分だけでも約1億円、市の財政で負担をしておりますので、今、Aさん言われるように、成人まで全部無料にせいというようなことは一度にはできませんが、義務教育の段階まではある程度段階を見ながら考えていく必要があるのかなというふうには思っておりますが、今はこういう状況でしばらく進めさせていただきたいというふうに思っております。

また、県単医療費の自己負担の部分なんかにつきましても、今年の10月から所得制限をかけようということで、全県的にはそういうふうに進められておるのですが、今のところ黒部市におきましては、所得制限は設けなくて医療費の助成を継続していきたいというふうに思っておりますので、そういう点におきましても、他市よりはそういう負担が増えないように努力をしているつもりでございます。

また、出産費用のこともちょっと触れられましたので、出産費用につきましても、今現在、国民健康保険に加入されておられる方は35万円、出産費用として補助をさせていただいておりますが、これを3万円上げようということで今話が出ておまして、これは12月の議会の条例改正をさせていただいて、そこで議決をいただければ1月から35万円が38万円に出産費用の助成は増えるということになります。また、一時立てかえなどにつきましても、平成18年から受け取りの代理制度を取り入れまして、その日、一たん立てかえというようなことは、事前に出産の1カ月以上前に登録していただければ、立てかえもないというようなことになっておりますので、そういう点では、負担というのはあまり感じられないのではないかなというふうに思っているところであります。

そのほか、高齢者医療に、高齢者の方々につきましてもかなり支援をさせていただいておりますが、これからも皆さん方といろいろ相談をさせていただきながら、そういう負担というか、一部の補助を続けていきたいというふうに思っております。大変限られた財政でありますので、二十まで、あるいは75歳過ぎたらすべて医療費の無料、あるいは今初めて聞いたんですが、死亡税ですか、10万円を亡くなられた方は……。

【Aさん】

だから、私も、財源がないのにただやれやれと言ってないので、ただ、健康保険と国民健康保険のほかには、二十から年金をもらう前の59歳までの方一人一人に健保と国民年金の保険料と別に市民税、医療税というものを課せて、医療の予算を増やせと。できればお年寄りもと言ったけど、お年寄りは若いときから

年をとったときの病気やなんかのためにたくわえておくことはできるけど、子供はそういうことはできません。子供をまずやってみて、それで予算が余って十分あるようならお年寄りのほうにも回してほしいと。まず子供を中心に言っているわけです。できれば……。

【市長】

話はわかりましたので、この医療税を新設してお願いすればどうかということなんですが、これにしても、いずれにしても、市民の皆さんに負担をお願いするということでもありますので、新しい税金として、そういう部分で黒部市だけではなかなか考えるのは難しいだろうと思いますので、国の制度としてそういうような制度ができれば、国のほうも、特に社会保障費といいますが、医療費の負担についても、年間1兆円規模で、毎年増えているという状況でありますので、それらのことにどう対応していくかというようなことについてはいろいろ意見が出ているようですが、これから制度として決めていっていただきたいというふうに思います。

そういう中で、やっぱり大事なのは、高齢者の皆さんにおかれましてはやっぱり予防です。そういう負担が増えないような健康を維持していただくということが大変大事でありますので、とにかく石田はパークゴルフ場もありますし、いろんなことができますから、総合運動公園なども近いですし、とにかく病気にならないように、けがもそうですが、そういう予防についてぜひ一生懸命取り組んでいただいて、あまり医療税だとか、社会保障費、医療費の負担が増えないような、そういう努力をぜひお願いしたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

黒部市も、ちょっと余談になりますが、今年、平成20年度で一般会計が約210億円で、いろんな、今言ったようなことなどを含めた扶助費で約20億円かかっておりまして、それも結構伸び率が、平成20年度は前年度と比較して5%ほど増えていっていますので、やはりこれらの扶助費の抑制、かかられる方のものは下げることができませんが、そういうふうな扶助費が増えないような努力もみんなできていかなければいけないのではないかとこのように思っておりますので、その点、ご理解をいただきたいと思います。

【事務局】

Aさん、よろしいでしょうか。

【Aさん】

実は、国でも地方にいろんな権限と税源を移譲せよということ、小泉政権から一部なっていると思っておるが、県は、水と森の森林税をつくったので、そういうようなもので、市独自でも、国の許可がなくても医療税というものはつくられるものかなと思って提案してみたんですけど、やっぱり国の許可なしには勝手にそういうことはできませんわけですか。権限がないからということでしょうか。

それと、公明党は予防に……。

【事務局】

Aさん、簡潔にお願いいたします。

【Aさん】

予防についてもいずれ。治療についての検査なら保険がきくけど、ちょっと体のぐあいを悪くしたら検査してみようかなと、その検査に対しても国保やとか健保の適用ができるように何とかしてもらえれば、

予防にまさることはない。一番結構。病気になって……。

【事務局】

Aさん、済みません、簡潔にお願いいたします。

【市長】

医療でそういう、やはりこれからの今の社会の根本的なことについては、少なくともやっぱり、どんなに小さくても県単位あるいは国で制度として決めていってもらわないと、市単独でというのはなかなか困難だと思いますし、そうすると、市単独でやれば、市民の皆さんの負担があまりにも大きなものになるというふうに思いますので、そういうことに対しての働きかけといいますか、国に対する予防については今後検討していきたいと思いますが、市単独で医療税みたいなものを創設するということは困難であるというふうに思います。

【事務局】

それでは、事前に申し込まれました方のご発言、今回はお一方であったわけですが、これで終わりました、これからは、本日お集まりの会場の皆様からのご発言をお受けいたします。

地区名、お名前に続き、お一人3分以内ということでご意見等を述べていただきたいと思います。

ご発言される方は挙手をお願いいたします。いらっしゃいませんか。

【Bさん】

石田に住んでおりますBと申します。よろしくをお願いいたします。

1番目の観光に関連しての質問なんですけれども、新幹線が黒部に駅舎ができて、着くということで喜ばしいという反面、やはり並行在来線とかの、北陸線ですとか、あと地鉄、こういったものの安定的なというか、持続的な存続というものをやはり考えていかなくちゃいけないと思いますし、やはりみんなで努力するというんですか、やはり市民を挙げてしっかり存続させていくという努力も必要なんじゃないか。つまり、ちゃんと利用させていくというか、そういうようなことが必要なんじゃないかなというふうに私は考えております。

済みません、観光のところとちょっと離れてきたのかもしれないんですけれども、例えば、地鉄の駅とかJRの黒部駅、生地駅の近くにある事業所の方が、事業所、会社等に勤めておられる方が車で通勤をするとか、そういうことでは非常にいろんな、全体から考えるとやっぱり非効率じゃないのかなと。環境問題とかいろいろそういう問題も最近あると思いますから、車を否定するわけではないんですけれども、車はなるべく使わないとかいうような考え方をしていかないと、北陸線とかあと地鉄も存続が非常にこれから厳しくなっていくんじゃないかなというふうに考えております。

やはりそういったところの努力というものも必要ですし、あと、行政としてもある程度の、率直に言うと、財政的な支援とか負担とか、そういったものもやはり必要になってくるのではないかなと。

あと、地鉄については、今、電鉄黒部から宇奈月までの間って1時間に1本ぐらいしか電車が通っていないと思うんですね。こういうので、果たして、これから新幹線が着いて、新幹線の駅に地鉄の新駅を接続させてというふうなことをしても、1時間に1本だけのダイヤで果たして利用してくれるのかなという思いがあります。

やはりそういうところは、地鉄のほうとかにもっと働きかけとかをして、私、個人的な意見としては30

分に1本は絶対必要だと思えます。30分に1本あれば、みんな使おうかなという気持ちにはなりません。くるワンきっぷというのがあったと思うんですけども、あれも使ったことはありますけれども、やはりもっと使ってもらうためにはそれなりの利便性というものが必要だなど。そういったことについて、市長さんの意見をお願いしたいと思えます。

【市長】

Bさんから今大変重要なお発言があったと思えます。新幹線が平成26年末までには、おそらく間違いなく開業されると思えます。そこに今、駅周辺整備計画の中で地鉄の駅を併設しようというようなことを検討しております。新幹線の駅の一番最寄りが舌山の駅で、400メートルほど離れたところに既存の駅があるんですが、今の新幹線との結節などを考えれば、地鉄の駅を新幹線の駅に併設するというようなことで検討しておりますが、今言われたように、ほんとうにこの地鉄線と並行在来線との関係が今後どうなって、将来、ほんとうに今現在の地鉄線が安定的に運営されるのかというようなことについては非常に心配しております。

新幹線が開業したその日から今のJR線は並行線になります。いろいろと引き続きJRで運営するという方法も最近では出てまいりました、九州のほうで。そうなるかどうかはわかりませんが、そうじゃなくて、今まで言われたように、地元でJR線を運営していくということからすれば、今のJR線が開業と同時にだれが今後運営していくのかということになりますと、やはり県が主体となって、今のところ、三セクみたいな形で富山県、今のところ15市町村全部が参加して並行在来線の検討をしておりますが、これがどうなるかということは非常に大切なことですが、非常に難しい。特に石田地区の方々もたくさんおられますので、滑川から魚津までの間8キロほど、今のJRが並行して走っている。この区間が並行線になったときに、両方が運営されるということはなかなか難しいのではないかとこのように想像しております。

一本化されるなり相互乗り入れの形になって、そしてまた、並行在の経営に地鉄さんがどういうふうにかかわられるのか、かかわれないのか、その辺のことが今後の並行在と同時に、今の地鉄の石田から、経田からというんですか、宇奈月温泉駅まで、この部分が将来だれが経営するのかというようなことに大きくかかわってきます。このことはほんとうに大事。そこで、今、Bさんが言われたように、黒部市にとっては、黒部鉄道として、この黒部市あるいは宇奈月地区の発展というのは、この地鉄とともにあったと私は思っております。そういう意味で、これからこの地鉄線、いわゆるこの鉄道が何とか存続できるような形に今からしっかりと考えて取り組んでいかなかったら、大変大きな問題になる可能性があるとは私は思っております。

いろんなふうにご意見を伺っていただいて意見を伺っていただいたり、いろいろ要望などを行っていただくために仮の話ですが、もし、さっき言った滑川から魚津の間に並行して走っている8キロ区間が一本化された場合、これは当然並行在来線として運営されると思えます。そうすると、隣の地のことは言えませんから、石田から宇奈月温泉までだけを地鉄が運営してくれるのか。今、電鉄黒部から宇奈月温泉の区間が一番新しい区間です。ここだけを地鉄が単独で運営していってくれるというのは非常に難しい話になってくるのではないかなと。

電鉄黒部は、一番ピークが昭和40年ぐらいに6千何百人の方が電鉄黒部の駅を利用されておったそうです。今、750人です。10分の1になりました。そこで今、さっきBさんが言われた、将来のこの地域のことを考えたら、私は、鉄道の駅を利用したいいろんなまちづくりなり、今の地鉄の駅を中心とした公共交通のネットワークをつくっていかねばならない。コミュニティバスとかいろんな話がありますね。それもコミュニティバスを便利すればするほど地鉄の利用者は減りますよね。当然そうですね。新幹線

開業までには、コミュニティーバスとかフィーダーバスとかデマンドバスとか、言葉ですればいろんな方法があるんですが、とにかく交通の空白地帯についてはバスは走らせないかんのですが、それは基本的には、今の地鉄の駅まで便利にして、そして、基本的には、地鉄を利用した通勤とか通学とか、病院に行くとかというような、そういう公共交通のつながりというか、ネットワークをつくっていなければならぬと思っています。

ですから、そのためにも、言われるように、とにかく電車をもっと利用する人を、去年、平均750人ですから、実は若干増えたんです。730人ほどがいろいろみんなで努力してもらったら、1日平均乗客のお客さんが少し増えたんです。だから、私は、もっと増やすには、さっき言っておられた通学とか通勤でもう少し地鉄を利用してもらいやすいような、そういう何か特典といいますか、料金を含めて、何かそういう仕掛けもして、とにかく電車を、この鉄道を何とか残すということを真剣に考えないと、しかも、それはそんな時間がないわけですよ。

並行在来線は、さっき言った新幹線が走った途端にJRが手を引く可能性というか、手を引きます。はっきりと言われますので、新幹線が走った途端にJRは今のJRから手を引くと。となったら、並行在というのは、新しい経営主体ができて、新たに認可をもらうには、少なくとも1年以上前から認可をもらうということになれば、26年、25年。しかも、そういう組織をつくるのに、平成24年に新しい会社をつくると県は言っていますが、それではもしかしたら間に合わない。しかも、その時点で平成24年ですから、そんなに日、時間はないんですね。

4年後にはそれらがパンと決まった時点でどういうことが起きるのかというのは、特に黒部は地鉄の駅が15カ所もある大変特異な場所ですから、このことはほんとうにしっかり研究、検討していかないかん問題だと思いますので、特に石田地区なり鷹施中学校校下の皆さん方から、いろいろご意見なりアイデアをいただきたいと思いますので、Bさんのおっしゃるとおり、ほんとうにこのことについては私も大変重要であるというふうに思っておりますので、いろいろと、また、地元議員さんもおられますし、振興会長さんもおられますので。事務局には何も言っていないので、これは仮の話で、来年のタウンミーティングのテーマの1つに、やっぱり並行在じゃないのかなというようなこともずっと思っておりますので、このことについてはほんとうに大きな問題だろうと思います。ぜひ、いろいろまた考えていただきたいと思います。

【事務局】

Bさん、よろしいでしょうか。
そのほかおいでになられませんか。

【Cさん】

新町町内会長のCです。

今年の春、高波が来て生地のほうで被害を受けたといろいろ聞いておるんですが、実は石田のほうも防波堤まで波が来て砂を巻き上げてきました。かつ大島海岸のほうはかなり、知っている方もおられると思いますけども、中に壁泉がありますね。あそこまで波が来たんです。私らは生まれて初めてなんです。それで、私らちょっと考えるとおかしいなと思っているのは、大島だともっときちっとした防波堤にできないのかなということで、市のほうでどう考えているのかおっしゃってください。お願いします。

【市長】

高波の災害復旧については、当然大島海岸あるいは石田浜のほうも大きな被害があったということは現

地を見ておりますし、そういうふうには認識いたしております。今、国のほうは、朝日、入善、黒部の国交省の直轄海岸の中で、特に被害の大きかった生地地区を中心に、来年の今ごろまで、今言っております災害復旧については、黒部地区においては8億数千万円、それにプラス有脚式突堤、生地に2本の海に伸びた突堤が出ておるんですが、あれを2本増やすと。あれは1基5億ほどしますので、2基で10億。ですから、さっき言った8億数千万と10億で、それらのほうについては、今の冬じゃなくてこの次の冬を迎えるまでには完成させたいということで、来年の今ごろまでには、今言ったようなことについては、黒部地区で整備がされるというふうに思います。

そこで、それらが終わった後、それで災害復旧がすべて終わったのかといたらそうではなくて、今、Cさん言われたように、大島海岸とか石田の地区でも堤防のところで一部見直さなければならぬようなところもあると思いますので、そういうものについては、申しわけないですが、来年の復旧工事が終わった後、入っていかれるんだろうと思っております。

また、特に大島のところにつきましては、どういう方法でやるのかというその手法がなかなか決まらなかったといえますか、漁業者の定置網の関係があって、最初考えておったようなものは、なかなか漁業者の皆さんの理解が得られないということで、今、特に石田の自治振興会の皆さんとか議員さんが中心になって、具体的にこういう方法でどうだというようなものをもって、経田地区の漁業者の皆さんと具体的な協議をするというような段階になっておりますので、まず、今までなかなか決まらなかった、手法、どういう方法でやるのかということを決めないと国交省も進められないということで、なかなかそこが進まなかったんですが、その辺について少し打開策がようやく見えてきたというようなことがありますので、今の国交省の黒部河川事務所の所長は、かなり前向きに発言をさせていただいておりますので、これから少し進むのではないかと期待をしておるところであります。

【事務局】

Cさん、よろしいでしょうか。

そのほかございませんでしょうか。

【Dさん】

Dです。

消防のことでお聞きしますが、消火栓に関しては、市のほうで設置されています。そのほかにボックスとかホースで、ほとんどだめなホースとか使えないようなホースがボックスの中に入っております。これは、各町内がやるということになってはいますが、入れかえるときにはやはりお金がかかるので、町内で計画的にやればいいんじゃないかという方もおられるんですが、なかなかならないので、市のほうで幾らか補助金とか、各振興会のほうにそういう形とした予算というのはつかないんでしょうか。よろしく願いいたします。

【市長】

毎年何カ所かずつ消火栓の設置をさせていただいておりますが、そこに、今言われたように、ボックスとか中のホースについては地元でお願いしようということでこれまで進めてきました。そこで、これまでの進めてきた経緯もありますし、また、消火栓を新しく設置する要望箇所もたくさん出ておりますので、お願いでしかないんですが、できればボックスとホース、この部分については地元で対応していただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

【事務局】

Dさん、よろしいでしょうか。
そのほかございませんでしょうか。

【Eさん】

岡のEでございます。

今回のテーマの3番目、子育て支援についていろいろお願いをいたします。

実は、白鷹幼稚園が廃止になって、石田の保育所と一体的な運営がされておるんですが、幼稚園の跡についてどのようなお考えを持っておられるかお聞きしたいと思います。私たち、石田の旧公務館と白鷹幼稚園の跡地についていろいろ論議した経緯がございますけれども、そのときには、市会議員のほうから、児童館について、議事録に残っているんだというふうな話をしておられるんですが、そうであるならば、いつごろから利用できるのか、その辺、ひとつ回答をお願いしたいと思います。

【市長】

昨年の子育て支援のテーマで石田地区のほうから大変熱心にいろんなご提言をいただいて、結果的には、石田こども園ということで今年4月から発足させていただいて、施設を運営させていただいております。大変ありがたく思っております。

そこで、幼稚園、旧の石田幼稚園の場所をどうするのかという中で児童館として利用させてほしいということのご意見なり要望については認識しておりますので、そういうふうに進めるということで、担当課とすれば今検討がなされております。

具体的にいつからかということについては、来年度の予算の協議もまだしていない段階で、なかなか明確にお答えできませんが、できるだけ早く、施設としてありますから、新たに建てるものではございませんので、できるだけ早く利用していただけるような、そういう形になるように進めていきたいというふうに思っております。

【事務局】

Eさん、よろしいでしょうか。

【Eさん】

できるだけ早くお願いします。

【事務局】

そのほかございませんでしょうか。

【Fさん】

浜石田のFです。

石田地区に学童保育を立ち上げましたのは、今からもう10年以上経過しましたがけれども、当時は三日市と私のところだけでした。それからずっと3年も4年も経過しましてから、田家のほうから教えてほしいということで来られました。また、中央小学校からも教えていただきたいということで来られましたけれ

ども、現在、宇奈月町と合併しまして、小学校は11校あるんじゃないかと思います。今、11校の小学校に学童保育が全部できておるのか、それから、また、私が民生委員児童委員協議会の会長をしておりました当初、黒部市はまさしく国際都市なんです。フィリピンの方、台湾の方、中国の方、インドネシア、アメリカ、それから韓国なんか、いろんなところから黒部市で生活をしておられる方がおられまして、当時調べてみたら、39名おりました。39名の方々を保健センターのほうへ、1日保健センターをお借りしまして、交流の場を設けました。そのとき、初めて設けたときにフィリピンの方、あるいはまた、台湾の方、インドネシアの方々の発言が、年間に何回か外国人ばかりの交流の場をつくっていただきたいという要望がありました。だけど、私が役を退くまでにその実現がなかなかできませんでしたので、今のほうでそういうことも検討していただいておりますか聞かせていただきたいと思います。

以上です。

【市長】

ありがとうございました。

学童保育については、小学校11校の中で今10校させていただいております。あとは、前沢小学校だけまだ実施しておりませんが、このことについては、よくご承知のとおり、地区の要望の上で進めるということですので、前沢のほうからこれまで具体的な要望が上がってこなかったのも、今のところ前沢は実施していないというような状況であります。

それから、外国人の生徒の交流の場ですか、コラーレのほうでそういう外国人子女の交流の場が行われているようでもあります。私自身はあまり認識していなかったんですが、もしそういうものが有効であるということであれば、そういうものを発展させていきたいというふうに思います。

黒部市内に今現在500人ほどの外国人の方が、毎月前後しますが、大体500人ほどの外国人の方が登録されておりまして、そのうち、今ちょっと人数はわからないんですが、その年39名でしたか、おそらくかなりの外国人の方がおられると思いますので、そういう意味では、国際化教育特区ということで、英会話を授業にして今取り組んでおりまして、ALTとかCIR、外国人子女とのそういう差異というものがないように、コミュニケーション能力を高めるという意味で、英会話の授業を実施しておりますので、そういう意味では、外国人子女もある意味では学校になじみやすいのではないかなというふうに思っているところであります。

今ほど言いましたコラーレで行われているというのは、まちづくり協議会の国際交流ワークショップでの交流会ということだそうでもありますので、教育委員会、黒部市のほうの主催では全然行っていません、今現在。そういうまちづくり協議会の中での国際交流ワークショップの中で交流会を実施してあるということだそうでもあります。

以上です。

【事務局】

Fさん、よろしいでしょうか。

そのほかおいでになられませんか。

【Gさん】

犬山から来たGですが、よろしくお願ひします。

富山県知事の石井さんが、山と緑を守るということで、1人500円いただきたいということやったわね。

そういう税金を取られておられるわけですが、その配分といいますか、その件について、黒部市は幾らかかっているのかどうか、そしてまた、それはどのようなことに使われておるか、そのことをお聞きしたいと思います。

【市長】

一昨年から水と緑の森づくり税、個人の方は500円、法人の方は資本金等によって多少変わりますが、そういうものを新しい県の独自の税金として集められて、データを持ってきていないので記憶だけなんです。年間3億ほどの規模だったと思いますが、それらを利用して里山再生を中心に行っておられます。黒部市におきましてでも、そのスタートに石井知事も参加されていて、若栗の越野荘のあるちょっと海側のスーパー農道沿いの整備を県の予算でさせていただいております。

そういうように、里山整備の最初の取り組みとして黒部地区を選んでいただいて、そういうような整備を若栗地区の地元の皆さんと、ほかに森林ボランティアの方々が参加されておったかな。かなり大勢の人数で、200人規模ぐらいで里山再生を自分たちで、下草刈りとかそういう間伐みたいなことを行って、そういうところに県内各地区でそれぞれ水と緑の森づくり税というものが利用されているというふうに思っておりますので、一定の効果はあったと、非常にきれいになったと思っております。スーパー農道沿いのあの地域においては、そういう里山再生されたところについては非常にそういう成果があって、クマなどの出没などについても効果があるというようなことで伺っているところであります。

【事務局】

Gさん、よろしいでしょうか。

会場の皆さんにお願い申し上げたいと思います。

本日、観光・交流の促進について、医療の充実について、子育て支援・学校設備の充実について、消防・防災体制の充実についてという4つのテーマでお願いしております。できましたら、これに沿った形でお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

【Hさん】

東布施のHです。

市長におかれましては、合併問題やらで大変お忙しいところ、これらにご尽力いただいて我々も喜んでおります。

4番目の防災ですが、東布施のほうは、おかげさまでそういう防災体制はいろいろ確立されました。おかげさまで、災害がないのでなによりですけども、先日も市長、部長以上ということで我々も要望したんですが、やっぱり山間部は集中豪雨という、そういう課題もあるものですから、いろいろ小さい土砂崩れやら用水関係というのがいっぱい出ていると思います。大きくならんうちに再度確認しながら取り組んでもらいたいと、そういうふうに思います。

それと、もう一つは、これは防災にはならんと思うんですが、これは鳥獣被害ということで、今、猿やクマ、そして今イノシシの問題が大変多くなっております。隣の朝日町の話聞いていますと、平成17年に四、五頭だったものが、今、平成20年の現時点では100頭以上になっておると。そういうことで、猿やクマの順序がない。東布施でも山のほう、尾山のほうですか、そういうことでちょっと見受けられるものですから、増えんうちに、被害に遭わんうちに、やっぱり今のうちに、芽を摘んでおかんなんと思いたすね。猿とかのいろいろな問題もあると思いますが、そこら辺をまげてよろしくお願いたします。

以上です。

【市長】

防災関係で、今ほど言われたように、今日は、振興会の役員の方がたくさんおられますので、昨年度の要望会で421件あった要望が、各地区でもう少し選択と集中で絞ってくれということをお願いしましたら、313、100件以上、各地区の重要要望件数が減りました。ただ、地区要望の件数というのは、人口とか地区の面積だけに比例しないというふうに私は思っております。今、東布施地区の話が出ましたが、やはり中山間地へ行けば行くほど、急傾斜地の崩壊の問題とか、用排水の問題とか、道路の問題とか、そんな問題がたくさんありますので、東布施地区などにつきましては、中山間地から要望が非常に多いです。そういうことが、ある意味では、一定の理解をしていただきたいなというふうに思っておりますので、そういうことに対しまして、我々としても、中山間地のいろんな問題については認識しておりますので、協力していきたいと思っております。

そこで、猿、クマ、イノシシの話、今日のテーマに関係ありませんが、これは非常に厄介。特に猿、クマもなんですが、猿が増えているということと、ここへ来て、今言われているイノシシが急激に増えているのではないかと。それで、イノシシは非常に危険もあるそうですし、また、イノシシの被害というのはかなり大きいものがあるというふうに聞いておりますので、根本的に芽を摘めという意味はどういう意味がよくわかりませんが、根本的に対策をつくったほうが良いということではありますが、なかなかこれも野生動物が相手ですし、また、動物愛護協会等いろんな方々がたくさんおられる中で、対応に苦慮しているところでもあります。また、いろいろご相談させていただきたいと思っております。

【事務局】

Hさん、よろしいでしょうか。

そのほかございませんでしょうか。

まだ、15分ありますので、ご忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

【Iさん】

犬山のIです。

旧宇奈月地区の防災無線が各戸についていると、旧黒部市にはついていないということで、各地区に、ここであれば鷹施中学とか何カ所かに今ついておりますね。そういうことで、黒部市も、旧黒部市も個々に、やっぱりあれは非常に必要やと思います。どういう考えか、前向きにひとつ考えてください。お願いします。

【市長】

防災無線の話が出ました。今、屋外スピーカーは旧黒部地区で25カ所ついております。なかなか風向きとか、特に寒い、戸締まりをしっかりとしたら、なかなか何を言っておるかかわらんというようないろんなご意見をいただいておりますので、屋外のスピーカーだけではなかなか災害を知らせるのには十分ではないというふうに認識しております。また、地区の振興会長さんとか町内会長さんなどの家庭には防災無線をお配りしております。250軒ほどお配りをさせていただいております。

そこで、旧宇奈月は全戸防災無線が配られておまして、今でもそれを使っておられます。そういうようなものを黒部市全戸に配ったらどうかと、配置というご意見だったと思いますが、あればいいんですが、

なかなか難しい。宇奈月地区を除いたら1万2,000軒ほどありますので、大体全部防災無線を各戸に配備したら2億以上かかるという試算をしておりますし、また、ああいう無線ですから、一回つけてできるというわけじゃなくて、更新というものが当然ついて回りますので、今の状況からすれば困難というふうに思っておりますし、全戸にそういう防災無線が配置されているような、そういう市町村というのはほとんどございません。

ですから、あればいいということはわかるし、宇奈月地区はついておるといってもありますので、そういう点は、ほんとうは考慮しなければならないのかもしれないけれども、今の状況の中では、今の状況というのは、振興計画の平成29年までの10年間の中では予定していないというのが状況です。

【事務局】

Iさん、よろしいでしょうか。

【Iさん】

とにかく前向きに……。

【事務局】

そのほかございませんか。

【Aさん】

子育てで、やっぱり将来を担う子供は増えてもらわないと、特に子供がまた老人を支えていく、また、日本の経済にとってもマイナスの面が多いので、やっぱり子供をたくさん持った人に、特にほかの市町村では、3名以上の人を、3名の子供の行く保育所を無料にするとかという、そういう点もあるけど、何か1人より2人、2人より3人と子供をたくさん持てば、何か市として優遇措置を検討してみるようなことはないのでしょうか。

【市長】

今ほど、3子、4子目からという話なんですけど、まず、どこか隣の町は4子目は100万だという話もあるんですけど、黒部市は、3子目でお祝い金3万円、4子、4人目で10万円のお祝い金は一時金としてお渡しをしております。済みません、ちょっと今、正確な、記憶にしかないんですけど、給食費とか保育料の支援というものはありますので、そういう点の拡充を考えていきたいというふうに思っております。

Aさん、よろしいですか。

あまり時間がないものですから、出ないかなと思って待っておった質問が幾つかあるんですけど、特に市民病院の件、先ほど言いましたように、市民病院を平成29年度までに改築したいと。外来棟を中心として改築したいと。それで、9月の議会で市民病院の改築のマスタープランを説明させていただきました。100億円以上かかる大事業です。病院の中での検討委員会の中では119億円かかるということを計画しているんですけど、そのままというわけにはなかなか難しいんですけど、幾らか努力をしていただいて、削減してでも100億円以上の事業にはなると思います。

そこで、先ほど言いましたように、医師は何とか今のところ確保しています。今、ドクターが79人おられます。常勤が62、研修医が17、79人。これは、他市のほかの公立病院からすれば非常に恵まれておると思います。ただ、もう一方では、看護師が非常に不足しています。今年も25人募集して、半分ほどしか今

現在確保されておりません。おそらく10人以上欠員が出る。欠員というか、予定よりも10人以上不足するのではないかと。そこで、ほんとうにどれだけ病院の施設とか設備を立派にしても、ドクターの確保ができて、看護師が確保できなかったらほんとうに大変なことになると私たちは今大変心配しています。

ですから、何とか黒部市民病院で働いていただける、そういう看護師さんをぜひご紹介いただきたいと思えますし、また、皆さん方のご子息の中で将来に何になるかと考えておられる方については、看護師になられたら就職は今後確実にできるというふうに思っておりますし、そこができなかったらほんとうに、今年10人不足して、来年、再来年、3年間ほど10人ずつ不足して30人不足したら、これは大変なことになります。何かをやめなきゃいけない可能性が出てきます。病院にドクターがいても看護師がいなかったら、なかなか病院としては成り立ちませんので、そこへ来て、最近、7対1、今、黒部市民病院は、患者さん10人に対して1人の看護師の割合で、10対1、それを7対1にしたら医療報酬を上げると、これが国の方針です。ですから、7・1を今、先日、何日か前の新聞などにも、7・1体制7・1看護ということでいろいろ書かれておりましたが、10対1でも看護師が不足しているのに、7・1はとてもじゃないけど今現在できません。

ですから、何とかそういう点でも皆さん方のご協力をいただきたいというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願いを申し上げます。

【Aさん】

仕事のわりに給料が安いんじゃないですか。

【市長】

そういう点も、今年は看護師さんのいろんなそういう見直しも、給料面の見直しもしまして、少し、特に時間外手当とかそういうものの見直しをしたんですが、これがまた大きいんですわ。人数がたくさん、280人から90人、300人近い看護師さんがおられて、少し見直してでも今年の経費は2億円増えます。ですから、非常に勤務時間も3交代で働いておられて人数も多いですから、少し待遇を改善してでもすぐ億単位ということになってきますので、ただ、一方では、赤字にもさせたくないというふうに思っておりますので、ほかの病院よりは悪くはないんですが、仕事の内容からすれば厳しいのかなということは思いますが、その辺はやりがいと使命感を持って頑張っていたいただきたいと思えます。

先ほどAさんからの質問で、保育料、子供がたくさんおったら保育料などをもっと見直せということの中で、第3子以降については、保育料は75%引きで25%になるそうです。3人同時に入っている場合には、それぞれ10%になるということだそうです。

【事務局】

予定しておりました時間が参りましたので、以上で本日のタウンミーティングを閉じさせていただきたいというふうに思います。

それでは、閉会に当たりまして、堀内市長から本日お集まりいただきました皆様へのお礼も含めましてごあいさつ申し上げます。

【市長】

どうも長時間にわたって、大変ご苦労さまでございました。

少しAさんのほうからも発言があったものですから、ちょっと触れさせていただきたいのは、先ほどか

ら新幹線の関連事業、たくさんやらなければならないとか、新庁舎の建てかえの問題とか、病院の建てかえの問題とか、学校の耐震化の問題とか建替えも含めてたくさん、これからの10年間でやりたい、やらなければならない大きな事業がたくさんあるんですが、これらについては、今、総合振興計画の中で10年間、きちっと今整理しておりますが、うまく、平準化すればすべてできるという見通しを持っております。10年間の財政見通しの中で平準化する、要は特別な、たくさん予算がかかる年度の山をつくったらだめです。

ということは、どういうことかといいますと、これからの10年間の中で、来年度の予算も今検討しておりますが、投資的事業が三十数億円できます。これは当然三十数億円の投資事業をやれると。その中身、今日、時間がありませんから詳しくはお話しできませんが、今年度は間違いなくそういう予算づけはできるという見通しであります。また、それらを10年間、これから大体10年間やっていけば、心配しておられる起債残高、借金の残高は増やすことはございません。今、今年度も公債費として、平成20年度は公債費、要は借金として27億円返しております。それはもちろん元利です。元金と利息を含めて27億円。我々の今の設定は、新しい借金、起債を年間15億円までだったら返すほうが多いから借金の残高は増えないという想定です。

年間15億円は借りよう。一般財源で20億円。それから、そういう事業を行うことによって、国とか県のいろんな制度を利用したら、大体十二、三億円の支援を、補助を含めて支出金がもらえます。ですから、国、県から毎年十二、三億円、それから15億円の起債、借金、それから5億円の一般財源、合わせれば三十数億円。これをこれから10年間、大体毎年やっていけるだろうという見通しを立てております。そうすれば、今言ったようなことは大体できます。ただ、さっき言った山をつくっちゃだめです。どこかでほんと、今年50億円かかったとかという山をつくったら、心配しておられる実質公債費比率とか、今、財政健全化法の中で厳しく評価されるそういう指数というものが、実質公債費比率だったら25%を超えたらイエローカードですから、それは絶対超えちゃならない。超さないように大体それぐらいずつは10年間投資できるだろうという見込みでおりますので、お金がないから何もできないということではなくて、さっきから言っているようなことは実現すると。そのためには、やはり市全体の問題をしっかりと見据えた上で、その辺についてはご理解いただきたい。

それとあわせて、さっきお話もありましたが、地元の要望、市全体の大きな事業枠を実現するために、地元で10年間何もせん和我慢してくれというわけにはなかなかいかないと私は思っております。ですから、地区の、地元の要望というものも、さっき言いました、来年度は313件、300件余りいただいておりますが、その中で大体2割から2割5分ほどしか実現できません。300ほど要望をいただいたら、そこから七、八十は実現します。ただ、残りについては、我慢をしていただくか、少し時間をかけて理解していただきたいと、時間をかけてやらせていただきたいと思っておりますので、地元の要望も全部やれ、市の全体のやつもやれというわけにはなかなかあわせてはいけませんので、今、特に合併後でありますし、また、新幹線開業までにやらなければならないたくさんの事業を抱えておって、これを何とか実現しないとやはり黒部の大きなチャンスというものを生かすことができないというふうに思っておりますので、ぜひその点、ご理解をいただきたいというふうに思っております。

こういう話をずっと地区の要望会なりタウンミーティングなどでさせていただいておりますが、ほとんどの皆さん方から顔を見ておると、ご理解いただいておりますが、ぜひ大きな課題の実現のために、大きな課題は今しかできないものがたくさんありますので、このチャンスを逃したら絶対にできないわけですから、それらを実現するために、やはりご理解とご協力をいただきたいというふうに思っておりますので、ぜひよろしくお願い申し上げます、今日は、大変長時間お集まりをいただきました

ことに対しまして心から感謝を申し上げて、これでタウンミーティングを終了させていただきたいと思
います。本日は大変ありがとうございました。

【事務局】

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りいただきたいと思います。

了